

宮古島の蝶

入江 照 夫

1 はじめに

仕事の都合で宮古島へ何度か出張した。大阪から空路1300軒2時間で沖縄、さらに330軒1時間で南西諸島の宮古群島、宮古島は沖縄と台湾との中間に位置する。

あまりなじみが無く台風シーズンに時おり耳にする程度であり、¹台風銀座の宮古島、のイメージでしか記憶のない島である。1984年6月から1987年4月までに数回の出張のうち何度か蝶の採集が出来た。

宮古島は緯度で西表島より北、台北より南であり、高い山が無く地形は平で、琉球石灰岩におおわれ市街地の平良市を除いて、ほとんどがサトウキビ畑で収穫前のサトウキビの穂が汐風に吹かれ見渡すかぎりに銀波をうつさまは壮大である。

2 蝶相について

4月、6月、7月、11月、12月とほぼ年間を通じて採集した事になるが個体数に変化はあるものの、周年同じ種類をみる事が出来る。採集地域は島の西部下崎地区と中央部にある平良市営亜熱帯植物園とで、自然林と草地が少ない事もあり種類はあまり多くないが、ある種のある時期には異常と思える程に多くの個体数を見る事が出来た。

ツマベニチョウ、ハマヤマトシジミ、ベニモンアゲハ等がそれで、何故か11月に数多く採集している。

3 各種の記録

2回目の訪島であった1984年11月10日から12月5日までに採集したもののみを取りまとめて報告したい。

アゲハチョウ科 6種

ジャコウアゲハ
ベニモンアゲハ
アオスジアゲハ
ナガサキアゲハ
クロアゲハ
シロオビアゲハ

シロチョウ科 5種

ツマベニチョウ
モンシロチョウ

キチョウ

ウラナミシロチョウ

ナミエシロチョウ

マダラチョウ科 5種

アサギマダラ
リュウキュウアサギマダラ
カバマダラ
スジグロカバマダラ
オオゴマダラ

タテハチョウ科 11種

アカタテハ
ヒメアカタテハ
ルリタテハ
タテハモドキ
アオタテハモドキ
メスアカムラサキ
リュウキュウムラサキ
ヤエヤマムラサキ
ツماغロヒョウモン
イシガケチョウ
リュウキュウミスジ

ジャノメチョウ科 2種

ウスイロコノマチョウ
リュウキュウヒメジャノメ

シジミチョウ科 7種

ヤマトシジミ
ハマヤマトシジミ
ウラナミシジミ
オジロシジミ
ルリウラナミシジミ
アマミウラナミシジミ
タイワンクロボシシジミ

セセリチョウ科 5種

クロボシセセリ
ユウレイセセリ
ヒメイチモンジセセリ

クロセセリ

オオシロモンセセリ

以上の7科、41種類である。

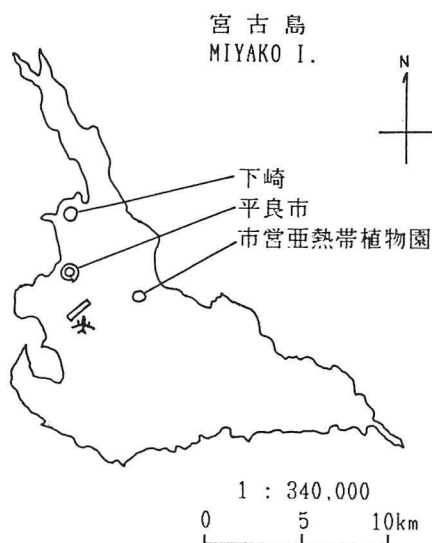


図 1

Teruo Irie

相生市

青垣町でエゾスジグロシロ

チョウを採集

広畑政己

1987年4月29日に氷上郡青垣町稲土の奥の林道にて本種を採集しているので報告する。

県下では神戸市、宝塚市、川西など摂津地方と播磨地方では記録がかなり見られるが、北部では但馬地方で数ヶ所が発見されているだけで、丹波ではこれまでに記録がなくこれが初記録と思われる。

林道には本種の他にスジグロシロチョウも生息しており、当日採集した4♂の内1♂が本種であった。同定に当っては発香鱗と発香裏の大きさの比率を用いて行った。

Masami Hirohata

姫路市

幹に産付されたクロシジミの卵

広畑政己・近藤伸一・永幡嘉之

蛭川(1985)によると本種の産卵植物はアブラムシやキジラミが寄生する各種の草本、木本植物で、その数は15科21種にも及ぶようで、他には小石にまで産卵したことが確認されている。また、産付位置は小枝や葉の表面裏面に産みつけることが多いという報告がある。

1988年7月31日に三木市大村にて写真1のように直径約15cmのコナラの幹に産付されている卵を発見した。幹に産卵するという例は珍しいと思われる。

産卵された卵は71卵で産卵位置は地上約2mの高さであった。コナラの生えている場所は林の中の少し日がさし込む程度の暗いところで、コナラにはひこばえもなく、当然樹上の葉にはアブラムシがいるかどうか不明である。

蛭川(1985)では産卵行動を誘発する主要因はアブラムシやキジラミの存在よりもクロオオアリの存在を上げている。この場合もクロオオアリが樹液にきていたのでそれに誘発されてそのまわりに卵を産付したものと思われる。

この他に同地でナラガシワの小枝にも20数卵産卵が確認できたので報告をしておきたい。

〈参考文献〉

蛭川憲男(1985) クロシジミ 文一総合出版 東京



写真1 幹に産付されたクロシジミの卵